飯田市

発行所
飯田市公民館
編集人
飯田市新聞委員会
印刷所
信州印刷KK
松本市市上町353

スキー・スケート
ワーム コート
防寒シューズ
ホームチケットを御利用下さい
クラチ運動具店
飯田市伝馬町TEL1285

課税は現状のまゝ
工場誘致で所得の増大を

市長助役に今後の市政を聞く

新市になって二回目の市長選で、前市長の松井清治氏が無競争で再選された。助役も清水重美氏の再任と決った。そこで、今後市政を行っていく上でのいろんな問題――赤字財政の解消、新庁舎の建設、工場誘致等により消費都市から産業都市への転換、隣接町村との合併等について、市長と助役に聞いてみた。

八年計画で赤字解消へ

問い、先ず最初に財政面ですが、未支払い分が八千万円あるとか起債も相当額にのぼる等財政的に苦しい状態と思われますがこれらに対する方針をお聞きしたい。

答え、旧村当時の未払い分九千万円や相次ぐ災害復旧に対する費用一億五千万円、緑ケ丘中学校八千万円、浜井場小学校、飯田工業高校等へ七億五千万円を投資しました。その内、国庫補助が二億円。起債が三億円となっております。

新市の重点政策の一つである学校教育の校舎関係が一段落したので本年より八ケ年計画で、年千二百五十万円ずつ償還し赤字を解消する計画です。合併後の懸案であった均一課税も本年より実施することが出来たので税率を上げることなく現状のままで進める考えです。

一億五千万円で大久保へ新庁舎

問い、新庁舎建設の見通しと財源の裏付けの説明を伺いたい。

答え、合併後の宿題であった新庁舎建設の件は八千万円の起債を受けることが出来たので明年度中に一気に完成し市民へのサービスに努めたい。現在の庁舎は六ケ所に別かれ非常に多くの経費が無駄になっている現状から新庁舎が必要なわけです。建設場所は大久保小跡地に予算一億五千万円で地下一階、地上三階延べ千五百坪の庁舎となる見込みです。

新市政に市民がなれて来ているので前役場に対する愛着が薄らいで来つつありますから、各地区の文化所はもう少し縮少したい考えですそうなった後は自治会とか地区協議会とかの活躍出来る場として有効に利用される方向へもって行きたいと思います。

問い、農業人口の減少論が話題となっている折から飯田の総合産業のカナメの工場誘致の考えをお聞きしたいのですが。

答え、飯田は元来が消費都市である関係から農村部の発展により市部の発展を進めて行きたい。又、農産物の加工工場を誘致して農業生産を高めより多くの市民所得の増大をはかりたい。

工場誘致に当っては、計画的な農業生産を上げるよう協力し、多少の犠牲を払っても工場に対しては土地の提供をする考えです。

農産加工で農業の発展を

問い、市の中央道や鉄道開発の面と、観光政策についてはどうなのですか。

答え、飯田下呂線の鉄道敷設を早期実現すると同時に、中央高速自動車道の促進はもとより、赤石林道の開設、飯田和田線の改修等を行ないます。これにより名古屋経済圏の一環に組み入れ、工場誘致等により衛星都市的な発展がはかれると思います。

旧市内の街路舗装も完備したい。また、観光面では、中・南アルプスを中心に大規模な施設を行ない伊那谷全体を公園化して外からの観光客をどんどん誘致する計画です。

問い、飯田市中央道は都市計画街路として計画をしてあるようですがこれについて、一言お願いします。

答え、旧市から西へ、三穂の立石まで十三キロ、巾員十一メートル予算は一億五千万円で五ケ年計画で進めて行きます。

都市計画街路として国庫から四割県から八分の一の助成を受けて着工し、第一期は伊賀良の中村までその後は中央高速自動車道へ直結する計画です。

これにより、各地区と市街地とのつながりを密にして、文化、産業の発展を期したいと思っています

伊那谷を公園化

問い、最後に、これも今後の市としては重要な意味をもっている隣接町村、今話題にのぼっている鼎町あるいは竜峡四ケ村との合併の問題についてはどんな見通しをもっておられますか。

答え、ドーナツ型合併といわれ市政を行なっていく上に多くの問題をもっています。

今後の市のあり方は人口十二、三万が適正規模といわれていますから、幾つかの段階を経て目標を適正規模にもって行く考えです。

鼎町との合併は次第に実現出来る見通しがありますが、上郷とは今少し時間が必要です。

竜峡四ケ村の問題は、県からの指示によって、四ケ村合併後に市と合併する方向が良いのではないかと思います。

また、川路のみの単独合併は難事と思われます。

合併問題は段階的に実現

論説
公明選挙運動に思う

明治二十三年初めての投票が行われてから七十年の歴史が出来た。その間大正七年普通選挙が行われ税金の納入額によって選挙権が出来た時より、一応二十五才以上の男子に選挙権が与えられたものの、官憲等の圧力が相当根づよく正しい判断と真の自由権とによる投票が出来ず一部の権力者が有利となりしたがって一部の人の利益になる様な政治しか出来ずに一般大衆は不満を内蔵しつゝ時を過していた。

戦後選挙法の改正により、婦人にも選挙権が与えられ、年令も二十才以上となった。だが、はたして現在の選挙が公明に行われているだろうかと考えると、疑問を持たざるをえない。これは、選挙法が完全なものではないからといって許せるものでない。先月行われた衆議院総選挙を見ても、公明選挙はどこ吹く風で法の盲点をつき、違反承知で言別訪問、一部には潜行して実弾をばらまく、またそれを受取って恩義を感じて自分の正しい判断を忘れて投票する、そんな事が沢山ある。

良識ある人達はこんな事ではいけないと公明選挙を呼びかけるが氷山の一角でわいわいとさわいでいるに過ぎず真の徹底した運動がなければならない。民主政治と表面では云々しているのに過ぎず真の徹底した運動がなければならない。民主政治と表面では云々しているのに過ぎず真の徹底した運動がなければならない。

選挙は誰にもそくばくされることなく、その秘密は完全に保護されるのであるが、その基本線すら知らずにいる有権者が沢山ある。そんな事ではいつまでたっても同じ事をくりかえすだけで前進がない。民主政治と表面では云々して現実にはきれいな政治は実現しないと考える。

行なわれているとはいいきれない手段や方法に誤りや、欠陥があるとは思えない。やはりすべての有権者がこの運動に理解と協力をしてこそ正しい選挙が出来るのであって、金や権力にまどわされていない現在では、公明選挙運動も空廻りするのも無理はない。

選挙は誰にもそくばくされることなく、その秘密は完全に保護されるのであるが、その基本線すら知らずにいる有権者が沢山ある。そんな事ではいつまでたっても同じ事をくりかえすだけで前進がない。民主政治と表面では云々して現実にはきれいな政治は実現しないと考える。

農業共同化は慎重に
資金、指導、販売の研究を

最近〝農業の共同化〟が注目をあびるようになって来た。

飯田地区内にもこの共同化へふみ出した〝先進者〟がある。

そこで、これからの問題について市当局としてはどのように考えているのだろうか。

この問題を中心に農業振興課、今村課長に聞いてみた。

農業の共同化は新らしい問題のように思われるが、これは昔から行なわれている問題で、例えば種蚕共同飼育も作業のゆい（手間の交換）もこの一種である。農業が適正規模でない現在、共同に出来る所をお互に出し合って経営構造を改善させなければならない。利潤の上がるもうける百姓にしなければならない。しかし部分的には昔からやられた共同化も完成したことがない。

そこで専業農業で行ける農家は堅実にこれをおし進め、次に来るのが共同化の方向になる。

共同化の初歩としては協業経営（部門別の共同経営）から始め、将来は総合的共同の方向に持って行く。

具体的に市内の共同化の芽ばえを紹介すると、

①松尾の三和水産（鯉の仔生産）

三名の有志が年間二〇〇万の資本を投下して二人の水田を専用の養鯉田にし、科学的技術と機械器具により飼育され、三人は月給制で仔鯉の伸び方も普通三倍というのが一年に十倍にもなるという。このように生死をかけた共同化は真剣そのもので経営の面でも、ある程度の資金は融通してやらなければ駄目である。

②下久堅のエノ木茸

八〇万の資本で五戸の全労力（家族も含む）を活用して、原木二万本の打込みにより、基本的な体制が出来上っているが、これはいわゆる副業的な見地で営んでいるケースとして注目されている。

③飯田の高田酪農の共同化

これは十人で二十頭の牛（最終的には三十頭にする計画）の飼育を一人の専従労務で行う。新しい畜舎を作り、機械搾乳を行う。

この他まだ研究中の所が二、三ある。

そこで市として考えなければならないことは、これらをどのように進めるかなど、問題も多くあるので、これらについて、市としては来年度に共同化の基本方針を出す。（課長確明）

これらは新市の発展の源である農業なので、農業委員会農政部や市会産業部をはじめ、各関係機関の研究が行なわれ、充分振興課としても打出す線には慎重にして行くことが大切である。

これに裏付けられる問題は共同化に対する資金の面、研究指導面とあらゆる面の研究が大切で、何も頭ごなし共同化だといって財産ばかり共同にしてもだめである。

協業経営とは出来得る部門、又機械の共同購入、又生産物の共同販売体制も良く研究されて行かなければなるまい。

やはり当市での共同化は、農業面で伸ばすので他の問題については政治の保護政策にかゝる。しかし貿易の自由化が起っても飯田地方では、養蚕業だけは落してはならず、また共同化のための資金融通も高利な所からの借入れをはゞんで、我々の農協金融の上手な借入れによる農業利潤を、更に再生産へ結びつけるような考え方に立って、農協機関も便宜を計り研究指導すること。

又、これからの農村青年も、農閑期には、共同化を前進させるために勉強を望みたい。

安全な交通のために
12月20日から道路交通法に変る

今度新しく道路交通法が生れ、今の道路交通取締法にかわって十二月二十日から施行される。

新しい法律には取締りという字がないが、それは取締る側の法律ではなく、交通する者が安全な交通をするための法律という考え方からである。

新しい法律では自動車の交通方法、運転者の守ること、歩行者の歩き方、道路の使い方などが改正され、歩行者の保護、酒気を帯びて運転することと過労になる運転の禁止、運転者に対する雇い主の義務等が定められた。

今号では紙面の都合により、多くの人が関心をもっている免許についてお伝えしよう。

自動車の種類が多った。現在九種類あるものが次の六種類に整理統合される。

大型自動車
新しく生れた種類。今の普通自動車のうち乗車定員十一人以上最大積載量五トン以上のもの。

普通自動車
現行のうち大型に入るものを除いたものと小型自動四輪車。

特殊自動車
現行のけん引自動車。特殊自動車（ブルトーザーなど作業用）特種自動車（自衛隊の戦車など）の三種類を統合したもの。

自動三輪車

自動二輪車
側車付自動二輪車も含まれる。

軽自動車
以上の種類変更で免許の種類も変る。

原動機付自転車の「運転許可」が「免許」となる。

第一種免許は現行の十種類（仮免許は除く）から次の八種類になる大型、普通、特殊、三輪、二輪、軽、第一種原動機付、第二種原動機付。

第二種免許は現行の五種類が次の四種類に整理される。

大型、普通、特殊、三輪。

この他に練習用仮免許がある。

今までの小型自動四輪車免許は、普通免許一本となる。

現在もっている免許は上の表のように区分され、新しい免許に継続される。

なお、新しい法律には小型自動四輪車免許はない。これにより、現在の小型自動四輪車は、第一種第二種とも普通免許とみなされるが、公安委員会で限定解除の審査を受け合格するまでは小型四輪しか運転できない。

運転免許の種類と運転できる自動車の種類

第一種免許ではそれぞれ右すみの表のような種類の自動車や原付自転車を運転することができる。

短信

▼松尾
松尾、下久堅、竜丘三中学統合の緑ケ丘中学校は、昭和三十二年着工以来三年ぶりに完成し去る十一月五日同校屋内体育館において来賓多数を迎え竣工式が盛大に催された。

松尾北の原には現在十五棟の市営住宅が昨年建設されているがこの程十一月末日竣工予定で四十戸の住宅を作るべく工事が進められている。

▼座光寺
十月二十六日当地区の老人クラブは開善寺へ見学に赴いて楽しい秋の一日を過ごした。

その際、上川路の老人クラブの会員四十名が収穫時の多忙の中にも、全員出動して茶の接待をしてくれたのには一同心から感激した。

▼龍丘
老人会佐久間ダム見学
竜丘老人学園の若桐会（桐林老人会）一行五十五名は去る十一月十五日佐久間ダム見学を行なった。当日は飯田線下車後目的地まで貸切りバスを利用し、午前中ダムを見学、午後から発電所内の見学を行なったが、時期的によく観光施設の整った上に紅葉も見ごろというところ。

そこで親切な所員の案内をうけた老人達は喜びをかくせないといった顔つきで無事帰宅し楽しい一日を送った。

▼下久堅
滝沢清顕翁胸像建設さる
本春以来、滝沢清顕翁の胸像建設委員会が地区内はじめ多方面にわたって寄附を募集し、名医として名高かった翁の徳を表わそうと準備していたが、倉沢先生の作により胸銅像が出来て下久堅小学校の東側に建立され七百余名参列のもとに十一月二十三日盛大に除幕式が挙行された

▼三穂
このたび県の観光協会では観光映画「伊那谷の民謡をたずねて」を製作することになり、その撮影が行なわれた。三穂地区では立石の柿を中心に十月六日に撮影が行なわれ完成の三十六年をまちのぞんでいる。

結婚祝歌募集

趣旨　新しい時代の生活に希望に燃えてスタートする若い男女の前途を皆で心から祝福して老若男女誰でもが共に楽しく気軽に歌える心あたゝまる作品を募集します。だれでもふるって応募して下さい

応募規定　歌題、型式は自由。但し、趣旨を充分生かしたもの。

入選及び賞金
（作詞）　入選一席　賞金三千円
（作曲）　入選一席　賞金五千円

締切　十二月二十日（作詞のみ）
作曲の締切は、後日発表する。

発表　来年一月二十日

応募先　下伊那教育事務所

平凡な年中行事

◇……今年の竜丘文化祭は会場等の都合で去る十二月三、四の両日にわたり竜丘小学校に於て……◇
◇……盛大にその行事が行われた。……◇
◇……先ず各種の展示品を珍しがったり感心したりして見つめていた観衆は、終始満員の婦人……◇
◇……会喫茶、未亡人会のバザーに立ち寄り、三日は午後三時半より行われた第七回青年演劇……◇
◇……発表会を鑑賞した。翌四日は映画会、囲碁、将棋、麻雀大会や四〇才以上の野球大会に……◇
◇……人気を呼び、楽しい雰囲気を見せていた。……◇

文化祭

先ず展示会の八会場では生活展、清水水産加工品展、四Hクラブ展、切手蒐集展、写真展、小学生作品展、書画展、華道展、趣味の展示会が行われ恒例の第七回青年演劇発表会は三日の午後から行われた。四日は展示会のほか映画会、囲碁、将棋、麻雀大会、レコードコンサートとあって十二月の寒風をよそに会場を賑わした。

今年の文化祭の特徴は従前のものゝほかに切手の蒐集展、自分の趣味で行っているものならばどんなものでも出品出来る趣味の展示会、劇映画、教育映画等の映画会同好者による囲碁、将棋、麻雀大会、四〇才以上の野球大会、レコードコンサートで同好者ならだれでも参加出来ると云うところにあった。

次に写真展の入選者を発表しますと、今年の写真展は自田作品と課題作品「竜丘の観光と産業」の二面から作品を募集し、会地の熊谷元一先生から竜丘の文化祭と云う観点から作品の審査を受けた。それによると総出品点数八〇点の内入選十一点、佳作二十一点を選んだ。

入選者　伊那の滝　今村薫一、光る蛍流峡　伊原万介、花火　高橋英夫、孫　高橋英夫、風景　塚平貞雄、農夫　塚平　登、走る子供　藤新八郎、初午の裸まつり　田中国夫、ガメツイ山羊　中村不二夫、の十一点。

佳作　ドンド焼き　伊原万介、こども　高橋英夫、四つの瞳　高橋英夫、早春　高橋英夫、城　塚平貞雄、ひとりぼっち　塚平貞雄、蛍流峡　中島達郎、南原橋　中島達郎、時又の燈籠流し　塚平　登、今宮の大三国　塚平　登、子守　原今朝夫、窓辺　今村東一郎、南原橋林俊彦、おむすび　成瀬　修、煙草吸い　河井洋治、花嫁　畑中美佐子、歓迎　田中国男、南原橋渡橋式　中村不二夫、公園の昼下り　中村不二夫、甘酒まつり　中村不二夫の二十一点であった。

又記念館に於て行われた囲碁、将棋、麻雀大会の部では囲碁一位鈴木明清、二位河原正吾、三位池村恒章、将棋一位中島均、二位木下和彦、三位今村武夫、麻雀一位大見常次郎、二位橋爪文男、三位高木関の各諸氏であった。

演劇発表会の内部的反省

今村　明人

端的にいって今度の発表会は、〝よくなかった〟〝失敗だった〟ということができる。あらわれた現象としては、観客をひきつけられなかったこと、たまにひきつけても脚本の筋、狙いとは殆んど関係なく、身振りの奇異さ、セリフの不自然さともなる本質的でない面白さでしかなかったことである。いうまでもなく演劇の本領、面白さは生きた人間が脚本から役をつくり出し、感動をもって人間の真実を追求し、観る人も我知らずひき込まれて全体が一緒に笑ったり泣いたり考えたりするところにあるが、今度の場合は始めから終りまで観ることに、可成り骨が折れたこと、思った。

全体としてみると　一、セリフがとゞかなかったことと聞えても何をいっているのか判らなかったこと――これは特に霜夜狸、巣立に強く云える。声が聞えなければ芝居にならない。発声　マイクの使う。

二、脚本の研究不足、役へのとり組みの粗雑さ――全般にあてはまるが律無月、殿様に強く感じた。その劇の課題が不明確であったし演技も感動を伴なわない物真似演技といえる。三、演技の不統一――勘定、巣立にいえる。勘定は勘次の器用さにかきまわされた感じであった。

尚自分達の生活態度、思想をあらわし易い脚本を選ぶこと。我々は我々なりの基礎的な勉強（二～三回の講座でもよい）が必要と思い方を充分研究したい。

演劇は、非常に大きな労力と時間と経費と熱意を必要とするだけに、より以上の効果があがる様な構えと方法が大切である。

七回を数えた発表会が演ずる側の質も観る側の質と量もさして変化がみられないのは淋しいことはあるが、今後青年のたゆまざる努力により竜丘に欠くことのできない文化活動として更に正しく発展することを確信したい。（竜丘演劇サークル演出部）

×　×　×

共通の問題で話し合う

龍丘睦会研修会

睦会では十一月六日竜丘支所に於て研修会を開いた。昨年までは発表会の形で行なわれていたが、今年はみんなで話し合い、研究する意味において、共通の問題をとりあげた。

研修会は五つの分科会に別れてそれ〴〵助言者、司会者、書記がつき、話し合いがされ、午後まとめ全体会議、評価があり有意義な一日を終った。

分科会のまとめ

第一分科会　受胎調節（二四名）
荻野式、基礎体温、ペッサーリコンドームについて一つ〳〵研究した結果、大変活発な意見が出て、今後の方向としてはペッサリーを中心に行なってゆくのがよいのではないかと云う意見にまとまった。

第二分科会　児童心理（三七名）
児童の問題は母親として、もっと関心が深く、出席人員も多く、研究された問題は幼児から小学校2～3年迄を中心として、しつけ情緒遊び（絵本、おもちゃ）年寄との関係、保育園について熱心に研究が出来た。

第三分科会　化学繊維の扱い方（八名）
助言者の先生を中心に化学繊維の種類からはじまって、クリーニングの方法、温度の調節、しまい方貯い方迄学び大変よい研究となった。

第四分科会　婦人の病気（二二名）
午前中助言者の先生が、体の調子が悪く欠席したにもかゝわらず、大変熱心に、自分達の意見を出し合い、会を続行し午後になって先生の指導を受けて、婦人の病気について、自分達が困っている点について、よい研究が出来た。

第五分科会　よいグループの活動のあり方（八名）
午前のよいグループ活動のあり方については、会をうまくしてゆくには周囲の理解も必要であるが一人〳〵が進んで学ぶと云う自覚を持たなければいけない、会自体も一つ所にとどまらず、目的をもって進むことが必要である。午後の二四時間教育では、子供の教育には、常に家庭内の人間関係が円満でなければならない点など母親として、再認識が出来、良い研究となった。

繭代金　年末配分はゼロ

いつまで続くか養蚕ブーム

十二月三日飯田市の農協役員大会が開かれ、その席上で天竜社、繭代金の年末配分について質問が出された。これに対して天竜社側では、年末配分は出来ないと解答をした。その原因は、糸価が下ったことを第一にあげ、一俵当りの生産費を三万八千円と計画したが、四万一千円と目標に達成出来ないことも原因とされている。

昭和三二年頃から三三年にかけて生糸市況も国内国外ともに需要がのびず異状な安価となった。一つには生産過剰という結果になった。そこで農林省では反当二五〇〇円の補助金をだして二割減反を強力に推進したのがこの二年前の事である。その結果が今迄とは反比例に需要がのび生産が漸減し夢にもみなかった、繭一K当五〇〇円の大台を割り大巾な好転をみたのである。そうなってくると竜丘の養蚕地帯は俄然活気を呈して今年は一本十七円の桑苗が実に二万五千本の注文が殺到、全国的な桑苗不足で技術員の方々も東奔西走してやっと注文分だけは確保したとの事である。養蚕の将来と今後の指導方針についてK技術員に色々と聞いてみた。繭相場についてはこのまゝの状態で大きな変動はなく横這状態が続くだろう。此れからの指導方針については増反するのではなく古株は改植し肥培管理をよくして反位収量をあげる事に全力をつくして今後の養蚕経営の安定と適地適作として発展をして行かなければならない。

又グランドに於ては四〇才以上の野球大会が行われ駄科が優勝した以上が今年の文化祭も盛大なうちにその幕を閉じた。

過去何年か行って来たこの文化祭も毎年少しずつ工夫され進んで来たが文化祭が今後みんなが参加出来るような、住民みんなのものであるようなものにする工夫を続けたいと反省された。

協同化先進地を視察

〝新農村〟で農業

新農村協議会では過日、畜産業の一環として県下農業共同化先進地視察を行った。

十三戸より各人の飼養乳牛を出資し現在乳牛二十五頭を飼育している東部町の横堰共同酪農地域、農業所得増加の方向として資金の回転の早い養鶏共同化を三人の青年で始めたと云う伊那市富県の二、五〇〇羽養鶏又養豚経営の専業化の方向としてケージによる養豚法を考案した更埴市真島のケージ養豚等の視察をした。

あの人　この人

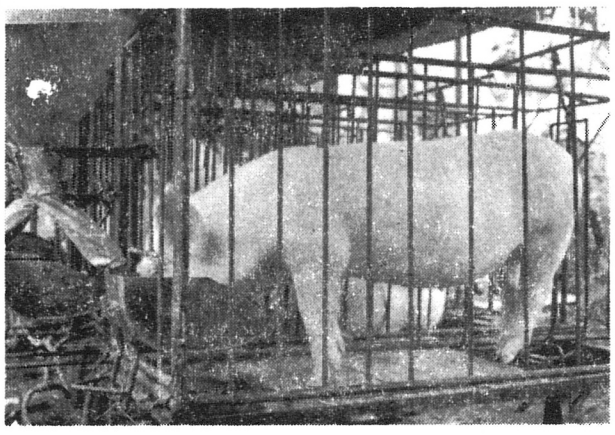
永遠に幸あれ

（長谷川龍智　中島すみ子）→（岡本　淳　熊谷　英子）→（今村　繁　鈴木とく子）→（村沢　登男　小林香代子）→（代田　徳郎　中島　協子）→（池田　昭治　宮沢　松子）→（中島　俊治　岡村　みよ）→（平沢大八郎　小林美奈子）→（高島　隆一　柳沢　イク）

（愛知県へ　桐林）→（松川町へ　駄科）→（時又　横浜市へ）→（駄科　鼎町へ）→（天竜村へ　駄科）→（駄科　松尾へ）→（飯田へ　桐林）→（茨城県へ　長野原）→（桐林　高木村より）

（長谷川光男　市瀬　末子）→（上田　正幸　前島恵美子）→（上里　忠敏　伊原　隆子）→（田中　昭二　三浦　智子）→（楠　秀恵　川窪　益子）

（愛知県へ　駄科）→（秋田県へ　駄科）→（鼎町へ　時又）→（駄科　飯田より）→（富山県へ　時又）



【写真は県下でもめずらしい更埴市真島のケージ養豚】

伸びよ健やかに

氏名	父名	性別	部落名
塚平　清一	寛志	男	上川路
杉本　芳弘	金吾	〃	〃
今村　直美	清松	女	時又
小笠原悦弘	正栄	男	駄科
久保田　浩	善次	〃	長野原
井口　俊介	喜八	〃	上川路
中平　浩人	明人	〃	駄科
伊原ますみ	弘	女	時又
伊藤　明芳	辰雄	男	駄科
牧内　畅	恭代		
伊藤			
上松　基祐			
城田　千鶴			
市瀬　利夫			
中島　ひろ			
大沢　正志			
塩沢　文子			
吉川　嘉一			
北沢　範子			

駄科　飯田より
時又　阿南町より
飯田へ　桐林
山本へ　長野原
松尾へ　駄科

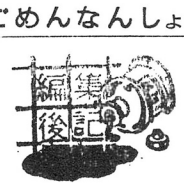
伊原　保勝　与一　〃　時又
篠田　真澄　タカ　女　川上路
伊東真奈美　俊治　〃　駄科
平沢　保波　松雄　〃　時又

御冥福を祈る

氏名	年令	性別	部落名
河原　せい	七四	女	時又
下平　斉	七八	男	桐林
林　リヱ	七二	女	駄科
久保田友直　三九		男	〃

▼第七回を迎えた青年演劇発表会立派なプログラムにくらべていささか低調だったような気がせんではないが、これも七年の壁か。演劇の間に取り組まれたヤクザ踊りはどう結びつけて理解していいのか苦しむし、かえって、青年演劇の質を低下させるものたとは、講師の先生の批評、芸術として別に悪くないと云う意見もあったが一考させられる問題だ。七回を数えながら演劇の取り組みが第一回と何も変っていない。今年の青年団が社会運動と正面きって取り取み進んできたはずなのに、それが全然この青年演劇に表われていないとはどういうわけか。

▼消防協力費の問題が起っているようだ。消防意識なるものは上から抑えつけるものであっていいものか。あらゆる団体が民主化された現在、どうも消防団だけが天下り式のような気がする。軍隊の名残りがある。災害に対する自衛と相互扶助がかゝげられているとすれば、大の大人に向って大声で怒鳴りつけることは科学的でない。オイチニもモハンソウ法も前時代的な感もする。民主消防の本旨は団員の本当の要求から盛り上げて行くのがいいと思う。おしつけのものでない自覚をもってこそ、はじめて協力費も頂けよう。



師走の風も冷たく身に沁みる。編集子一同ほっかむりで今年最後の編集に取っ組んだ。今年は安保斗争、選挙と政治的には大きな変化があった年だった。六年続きの豊作に相まって経済的には良い年だった。その反面将来に課する問題がある。池田首相の御冥目の所得倍増の初夢でも見たい。ヨイオトシオ！

新鮮な魚の
御用命は
や　本店へ
TEL 17　有線 6～17

随想リレー　80回

明日に生きたい

上川路　塚平利久郎

安保改定、貿易の自由化と、社会の流れは急変して来た。岸さん個人を見た時彼の前歴は終戦と同時に戦犯容疑者として三年間の巣鴨の生活を送った。その失意の時代にもへこたれなかった彼の保守的思想と官僚根性が、安保改定、貿易の自由化と、国民の反対をも押切って進められてしまった。彼の独裁政治的思想は、ヒットラー以上のものがあった。安保改定によって世界を不安に陥し入れ貿易の自由化によって農民の生活を脅した政策をとって来た岸政権は倒れたが、岸に続く池田さんの出現、彼は戦後派の政治家であるが、岸以上の官僚系の人物である事は余りにも有名であり「貧乏人は麦を食へ」は彼の非人間性をはっきり表わすものである。

その彼が、農業基本法、拠出制国民年金と政策を打出して来ているが十年間に農業人口を四割にへらし一町五反以下の零細農家は切り捨てようとするのが農業基本法であり、一人積立元利が二十五万円と莫大な額になっても途中で死ねば一銭も貰えないと云うまったくの掛捨年金が拠出制国民年金である。こうした矛盾から矛盾と云った社会の仕組の中に生きる青年特に取り残される農村の中に生きる青年には夢も希望も与えられない機械化、合理化と云う言葉じたいが農村を苦しめてしまう。なぜなら、首切対象者の機械化ではほとんど収入は増加しない、完全消費生活の拡大である、社会機構から見た時、農産物の値下りは当然の様に考えられる。こうした社会機構がいつのまにか青年の気持をゆがめた姿に変えてしまおうとしている。希望もなにもなくただ今日を現在をどうにか面白く暮せばよいのだと考え三Sと云われるような、スピード、スリル、セックスといったいちじの享楽にふける青年が非常に多くなっている。こんな姿の社会はまったく暗黒でありただ破めつがあるのみだ。こんな社会を変える第一は青年が明日に生きる喜びを持つ事であり、未来に対して大きな希望を持てる社会を築き上げることである。

【次回のバトンを桐林中田富子さんに渡します】